

2006年 10月1日(日) ぱるるホール

第11回 国際音楽の日コンサート

## 時空を超えて訪ねるモーツァルトの旅



ピアノ協奏曲第12番演奏の様子

左から、高梨志保(Pf) 川口静華さん(Vn) 小泉百合香さん(Vn)  
青木史子さん(Va) 白神あき絵さん(Vc)



左から 深見誠さん(ジユスマイヤー役) 関真亜子さん(ガイド役)  
お二人のお話のお蔭で、分かりやすく曲を聴くことができました



最後の全員合唱 千葉若潮少年少女合唱団・女声アンサンブルAmicheの皆さん

モーツァルトの生誕250周年を記念して開かれました、今回のコンサート、  
沢山のお客様と素晴らしい共演者の方のお蔭で、無事におえることが出来ました。

写真が無くてアップ出来ませんでしたが、クラリネットの高子由佳さん、歌手の  
千葉真智子さんと大坪義典さんも、とても素敵なパフォーマンスをして下さり、  
改めてモーツァルトの素晴らしさを実感するコンサートとなりました。

高梨 志保

## program

### ダイヴェルティメント K138 第2楽章・K137 第2楽章

作曲年代1772年(16歳)

川口静華(Vn) / 小泉百合香(Vn) / 青木史子(Va) / 白神あき絵(Vc)

2回目のイタリア旅行から軽里ザルツブルグに寄り、作曲に耽っていた時期の作品。イタリアで受けた様々な影響とザルツブルグの音楽がコラボレーションする若いモーツァルトにとって豊かな実験的時期とも言える頃の瑞々しい作品。

### ピアノ協奏曲第12番 第1楽章 K414 作曲年代1782年(26歳)

高梨志保(Pf) / 川口静華(Vn) / 小泉百合香(Vn) / 青木史子(Va) / 白神あき絵(Vc)

1782年11月3日にアウエルマン一家で行われた音楽会(予約演奏会)のために書かれたとされている。当時のウィーンの保守的な聴衆に気を遣い、想像な保身的神情から出ないように配慮するなど慎重な姿勢がみられる。

### クラリネット五重奏曲 イ長調 第1楽章 K581 作曲年代1789年(33歳)

高子由佳(Cl) / 川口静華(Vn) / 小泉百合香(Va) / 青木史子(Va) / 白神あき絵(Vc)

深い織文のあった優れたクラリネット奏者アントーン・シュタラーのために書いた作品。モーツァルトの洗練された気品とクラリネットのしなやかと表現力が織りなすこの作品は、この種の楽曲の最高傑作である。

----- 休憩 -----

### モーツァルトの百面相

金井誠(指揮) / 庄子和佳子(Pf) / 千葉若潮少年少女合唱団 / 女声アンサンブルAmiche

演奏曲：歌劇「フィガロの結婚」「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」より /

ピアノソナタニ長調、ハ長調、ピアノ協奏曲イ長調より /

ヴァイオリンソナタホ短調より / アインクライネ・ナハトムジークより /

交響曲10番、11番「ジュピター」より /

ダイヴェルティメントニ長調より

### 歌劇「魔笛」K620より 作曲年代1791年(34歳)

“わが胸は怒りに燃えて”(夜の女王の Aria)

千葉真智子(S) / 高梨志保(Pf)

“恋人か女房か”(パパゲーノの Aria)

大坪義典(Br) / 高梨志保(Pf)

二重唱 “パ・パ・パ”

千葉真智子(S) / 大坪義典(Br) / 高梨志保(Pf)

モーツァルトに新しい生活の場を求めてウィーンに移ったが、時代は音楽家がフリーなかたちでひとつの都会で自由に活躍するには、まだまだ早すぎた。苦節10年、モーツァルトにはもはや絶望しか残されていなかった。肉体の疲労も、もはや回復のすべもないほどのものであったが、魔笛に書かれた Aria には秋の青空のように澄明な音調が響いている。モーツァルトはこのようにして最後の年1791年を迎えたのだ。

初演は、1791年9月30日午後7時、ウィーン郊外のヴァーデン劇場で「エマヌエル・シカネーダーによる2幕の大歌劇「魔笛」」という題で興業された。

### モテト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」K618 作曲年代1791年夏(34歳)

出演者全員

死の半年前の1791年夏、当時バーデンで療養中の妻コンスタンツェの世話をしてくれた合唱指揮者で親交の深かったアントン・シュトル(1748-1805)のために書かれたもの。弦楽4部とオルガンの伴奏による4部合唱曲。全曲わずか48小節の小品ながら、短く語りげない前奏から静かに歌い出されるその響きは澄み切って美しい。

(歌詞大意)めでたし、まことの御体、十字架上に犠牲となられ、われらのために血を流し給う。